

技術選定にあたっての評価軸（案）

平成 20 年 3 月

環境エネルギー技術革新計画WG

- 現時点での技術の成熟段階（太陽光発電のように第 1 世代～3 世代と分かれているものは世代毎に評価）
 - ①普及・性能向上開発段階、②開発・実証試験段階、③応用研究段階、④基礎研究段階

- 二酸化炭素削減ポテンシャル（2030年）
 - 日本：①1,000 万トン以上、②100～1,000 万トン、③10～100 万トン、④10 万トン未満
 - 世界：①3 億トン以上、②3,000 万～3 億トン、③300～3,000 万トン、④300 万トン未満

- 我が国の国際競争力
 - ①世界をリードしている技術、②他国と同等レベルで国として不可欠な技術

- 技術の汎用性（国際展開・国際貢献）
 - ①世界全体で通用する技術、②とりわけ海外で有効な技術

- 経済的なインパクト（2030年）
 - 日本：①1 兆円以上、②1,000 億～1 兆円、③100～1,000 億円、④100 億円未満
 - 世界：①3 兆円以上、②3,000 億～3 兆円、③300～3,000 億円、④300 億円未満

- 官民の役割分担
 - ①官が主導すべき技術、②官民共同で実施すべき技術、③民が主導すべき技術

- 社会システム
 - ①市場原理で普及する技術、②規制改革や税制優遇など、政府の支援が必要な技術（具体的な支援策もあわせて記述）、③飛躍的発展が必要な技術

- その他の観点から重要
 - （エネルギーセキュリティに資する技術（我が国として保有すべき技術）、分野融合や他への波及効果が大きい技術 等）